

3月定例市議会 一般質問をしました

2月26日(水)から3月25日まで開会された3月定例会で、川口新風会を代表して一般質問を行いました。市政に関する問題を取り上げましたので、その概要を報告いたします。

1 市立美術館建設について

川口市は、市立美術館の設置を目指し、これまで2年間、「川口市美術館基本構想・基本計画審議会」において検討が重ねられ、2月28日、第11回会合で、「川口市美術館建設基本計画(案)」がまとめられました。

川口市は、公共施設の維持・管理のために多額の費用が必要とされています。人口の高齢化が進むなか、福祉に必要な支出も増大していくと考えられます。このため、今、新たな公共施設の建設には慎重であるべきであり、現状では多額の出費が伴う計画には賛成できません。

1.1 美術館に採算性なし

美術館建設の問題点は、市民の考えを把握することなしに進められていることとともに、建設費、運営費が将来にわたって川口市にとっての負担になるということです。

この点について、「経営的な視点から成り立つことは困難」であるとの認識が示されました。これまでの審議での過程で、建設形態によってことなりますが、約20～26億円(土地購入費は含まない)との概算費用が示されていることから、市にとって財政負担になることが明らかになりました。

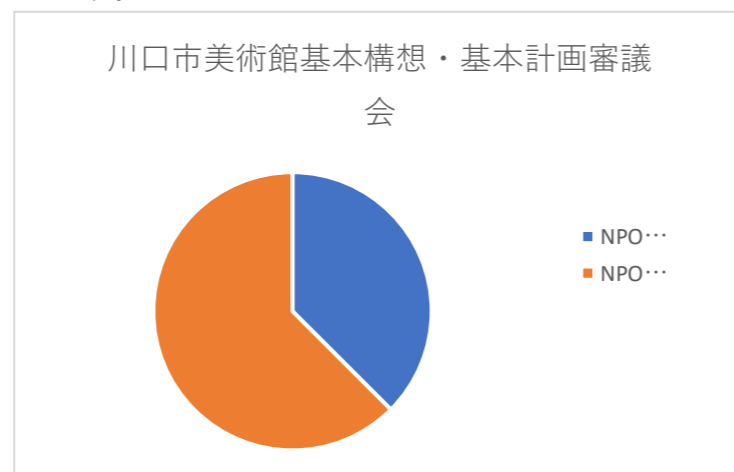
1.2 審議会の構成に偏りはないか

「川口市美術館基本構想・基本計画審議会」

は、市内に拠点を置くNPOの役員が複数委員としてかかわっていることから、公平性・中立性の観点か問題はないかの認識を尋ねたところ、問題ないとの答弁がありました。

また事務局職員も同じNPOの役員ではないかとただしたところ、担当に異動する際に退会したので、これについても問題はないとの答弁でした。

審議会で熱心な議論がされてきたことに疑う余地はありません。一方で、外形的に見れば、審議会委員の3分の1がひとつのNPO関係者であり、審議会の資料を作成するなど、審議会の支援に携わる事務局職員も関係者ともいえる立場にあったということは、審議会の公平性・中立性についての指摘を受ける余地を残すものであり、人選にミスがあったと言えます。



2 教育委員会は反省が必要

～いじめ問題～

最近、川口市の市立小中学校で発生したいじめ問題が頻繁に取り上げられています。訴訟が提起されている事案もあります。裁判の準備書面のなかで、去

年9月、川口市は「いじめ防止対策推進法」には欠陥があると主張し、順法義務がある行政としてふさわしくないと批判されました。この件については、文部科学省は、川口市教育委員会教育長を呼び出し、法令を順守するよう指導したと報道されています。

こうしたことから、川口市教育委員会の順法意識について、質問しました。

2.1 「係争中」を理由に答弁なし

(1)いじめ問題調査委員会の設置が遅れたことについて、国・県から指導を受けたという認識はあるか、

(2)武南警察署が作成し、証拠として提出した市が裁判所に文書に誤りがあったことが明らかになっているが、この文書をどのように扱うのか、

(3)陳述書のなかで、頭をたたいたり、耳を引っ張る行為は「愛情表現であり体罰ではない」という表現があるが、こうした表現は許されるのか、

これらの質問に対して、「係争中であること」を理由に、答弁はありませんでした。

裁判と議会はまったく別であり、「係争中であること」は答弁を拒む理由にはなりません。答弁しないことは、かえって、教育委員会に対する信頼を大きく傷つけるものです。

2.2 川口市は、個人情報の保護に後ろ向き

川口市が出したプレスリリースの中で、未成年である関係者の名まえを、黒塗りして保護することなく発表されていました。氏名は、個人情報の最たるものであり、まして未成年であれば強く保護されるべきものです。

市の見解は、当該関係者の名前は、個人情報であっても、報道関係者にとっては、知り得る情報なので、保護する必要がないというものでした。

極めて残念な答弁です。個人情報保護条例には、「相手が知りうる」情報であれば提供してもよいとは書いていません。条例を不当に拡大解釈しているもので、条例違反の可能性が濃厚と考えます。

市は個人情報を守る立場で最新の注意を払うべきですが、そうした姿勢が全く感じられない。市に対する信頼を根本から失わせるものと考えます。

いま川口市の教育行政の在り方が問われていると思います。係争中であることを理由に、答弁をしない、条例を逸脱する疑いがある答弁を重ねる、こうした姿勢では、川口の教育に対する、市民の信頼を得られるとは思えません。

4 埼玉高速鉄道(SR)延伸について

川口市と埼玉県、さいたま市が出資者となっている埼玉高速鉄道(SR)は、川口市民にとって大切な交通手段です。現在、さいたま市にある浦和美園駅が終点となっていますが、埼玉県は来年度予算で、延伸のための調査費をつけたと報道されています。延伸が現実のものとして動き出しています。

延伸そのものは、全体として鉄道利用者の利便性に好影響を与えるものと考えますが、一方で、①建設工事費の負担や運賃への影響、②乗客が増えることによる混雑も懸念されます。それにより、川口市民の生活に影響があってはなりません。

